

作曲家・ドビュッシー 没後100年

斬新光と色彩に迫る

今年、フランスの作曲家ドビュッシー(1862〜1918)の没後100年。その魅力を3回シリーズで紹介する公演「光と色彩の作曲家 クロード・ドビュッシー」(朝日新聞京都総局など後援)が10、11月、左京区下鴨半木町の京都コンサートホールで開かれる。



ドビュッシーは斬新な作曲法や巧みな表現で、伝統的規範を打破した作曲家として知られている。

1回目(10月13日)で案内役をするのは、京都大人文学研究所教授の岡田暁生さん。「印象派で優雅な音楽というイメージが強いが、従来の音楽を壊し、再構成した『破壊者』の面もあった。音楽の色彩感で知られるが、第1次世界大戦のなかで色彩がそぎ落とされ、水墨画のようにになっていく過程も知ってほしい」

2回目(11月10日)の案内役の同志社女子大教授の椎名亮輔さんは「ベルエポック(良き時代)といわれた20世紀のパリのサロンコンサートとドビュッシーの関わりを迫

ドビュッシーの魅力を語り合う大嶋教授、椎名教授、岡田教授(写真左から) 左京区の京都コンサートホール

10・11月に計3回 左京で演奏会

りたい」。出演するフルート奏者の大嶋義実・京都市立芸術大教授は「それまでの音楽の世界を超え、神話の世界に遊ぼうとしたドビュッシーの音楽を伝えたい」と語る。

1回目はピアノストの中川俊郎さん、小坂圭太さんが出演。ドビュッシーの「小組曲」から「小舟にて」、二つのアラバスク」から第一番、弦楽四重奏曲から第一、2楽章(4手連弾版)などを演奏する。一般3千円。

2回目はソプラノ歌手のサロメ・アレールさん、ピアノストの永野英樹さん、ハープ奏者の福井麻衣さん、ピアノ奏者の細川泉さんが出演。イベールの二つの間奏曲、ドビュッシーの「フルートとピアノ、ハープのためのソナタ」などを取り上げる。一般4千円。

3回目は11月23日。フランスを代表するピアニストのパスカル・ロジエさんがドビュッシーの「前奏曲集」第一集、第二集を弾く。一般5千円。

いずれも午後2時開演。問い合わせは同ホール(075・7111・3231)。

(大村治郎)